

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 × JAL

生きる人、自然。
南の島の絆を世界へ、未来へ。

JALグループは、鹿児島県から沖縄県にまたがる奄美大島、徳之島、やんばる（沖縄島北部）、西表島の世界自然遺産登録を目指し、地域の魅力を積極的に発信すると同時に、その貴重な自然の景観や地形、そこに生息する希少な動植物や独自の生態系が将来にわたって守られるよう、地域と一体となって取り組んでいます。



南国をもっと身近に
JALが届ける大自然の魅力

胸が高まる、南国の青く澄んだ海と森。訪れる人が抱く旅への興奮は、亜熱帯の熱を帯びて一気に高まります。

気候に恵まれ、世界的にも稀な生物多様性を発展させてきた奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島。JALでは、これらの地域の世界自然遺産登録を目指し、2016年からさまざまな活動を通じた支援を行っています。特に2018年に入ってから、対象地域を

つなぐ新路線の開設に加え、プロモーション活動にも力を入れています。機内誌「SKYWARD」では、4〜6月の3カ月間にわたりこれらの地域を紹介。奄美群島に住む人々の暮らしや文化、地元の人々に愛され続ける自然、太古より生き続ける貴重な動植物の生態や島の魅力まで、ふんだんにお伝えしています。

また、機内ビデオでは、お笑いコンビ「バックンマックン」が、オリジナル番組で奄美大島の島唄、グルメなどを紹介。さらに、沖縄県を巡るツアーなどによるキャンペーン展開や、世界自然遺産候補地を訪れるオプショナルプランなども用意してきました。

写真提供：モモト



機内誌「SKYWARD」やWebサイトなどを通じて、地域の魅力の情報発信を行っています

次世代を支える子どもたちの自然への理解や地元愛の醸成等を目的に、自然体験教室を地元新聞社と共同で主催



九州応援プロジェクト、 JALはこれからも続けていきます。

「平成 28 年熊本地震」の発生とともに、地域への支援を目的に発足した「九州応援プロジェクト」。この活動は現在も継続して行われています。ここで最近の取り組みについてご紹介します。



福岡県朝倉市の「博多万能ねぎ」応援活動 40年の間に育んだ絆を、これからも

福岡県朝倉市産の「空飛ぶ野菜」[博多万能ねぎ]。JALは、1978年から航空輸送のパートナーとして、福岡から東京・大阪へと万能ねぎをお届けしています。万能ねぎのパッケージには、JALのロゴもプリントされ、空輸でお届けしていることを示しています。しかし、2017年7月に発生した九州北部豪雨により、朝倉市のねぎ畑も被害を受けてしまいま

た。JALでは社員からボランティアを募り、被害を受けたビニールハウスから泥や瓦礫を撤去するなど、複数回にわたってお手伝いしました。40年の関わりがある万能ねぎに対しては、社員の思い入れもひとしお。ほかにも、マイル寄附の募集、義援金の寄附、救援物資の提供、社員募金などさまざまな活動を通じて復興支援に取り組んでいます。



JALは朝倉の博多万能ねぎを応援しています。「博多万能ねぎ」をモチーフにしたロゴを国内線就航機に描きました



ボランティア活動を通して、生産者の皆さんとの絆も強くなりました



熊本復興応援活動

熊本の方々の“思い”に寄り添える復興支援を目指して

JALグループでは、熊本にて「地域の復興応援」と「被災された方々の支援」につながる取り組みを行っています。社員を対象に実施している九州復興応援研修では、熊本地震で被害が大きかった益城町を訪問し、地震当日からこれまでの貴重なお話を地元の方から伺っています。また、研修を繰り返す中で地元の方とのつながりも深くなり、東京のJAL本社ビルで開催した熊本物産展では、益城町の方に震災講話を行っていただくとともに、地元婦人会の方が被災した家屋から取り出した着物などの生地で作成したポーチを販売しました。

このほか、「熊本城・阿蘇神社等被災文化財復興支援委員会」を通じて熊本城・阿蘇神社への復興支援金の寄附を行うなど、今後も熊本の復興支援を続けていきます。



復興応援研修のようす



婦人会の方が販売するポーチの一つ一つにJAL社員へのメッセージが同封されていました

地元へ根ざした 持続可能な発展へ

地域に観光客を呼び込む活動に力を入れる一

特に2018年7月1日からは、鹿児島空港を拠点とする日本エアコミューターが、「奄美群島アイランドホッピングルート」を開設。奄美大島から沖繩（那覇）までの島々を結ぶことで交流人口の拡大による地域活性化を図ります。また、元THE BOOMのボーカリストで音楽家の宮沢和史さんがプロデュースするツアー「琉球の唄と自然を訪ねて」では、島の唄を歌い継ぐ地元の方々の思いに触れ、島を深く知っていたことができそうです。さまざまな施策を通じて、地域の魅力を伝えていきます。



世界自然遺産登録を見据えたシンポジウムを主催



民泊サービスを提供する百戦錬磨と連携し、地域に根ざしたパッケージツアーを開発

方で、観光化は自然破壊などにつながる側面も。地域との共生を通じた持続可能な発展に向け、JALでは、民泊事業を通じて地域活性化に取り組み株式会社百戦錬磨（以下、「百戦錬磨」と）の協業により、空き家や古民家を活用したツアーをご提供しています。この企画は、地域の体験型宿泊を得意とする百戦錬磨が、各地の観光資源を発掘し、JALがプロモーションや送客を担うことで、交流人口の拡大や宿泊施設不足の解消、そして持続可能な観光地域づくりを目指すものです。そのモデル地域第一弾として奄美エリアからスタートしました。

さらに、企業間のみならず、地元行政や住民の方々との連携も進めています。希少動物を含めた生態系保護を目的とした「ロードキル防止標識」の設置、世界自然遺産登録を見据えたシンポ



徳之島名物の闘牛。アイランドホッピングでは個性溢れる島々を楽しんでいただけます

ジウムの主催などがその一例です。2017年8月には、奄美大島で「夏休み親子自然教室」を開催しました。JALと日本エアコミューターの客室乗務員による「空の教室」やマンングロープカヌー体験、干潟での生物観察などを通じて、地元の子どもたちに環境意識の啓発や地元愛の醸成、次代を担う将来のリーダー育成の礎となればと考えています。

2016年から始まったJALの世界自然遺産登録に向けた活動は、今年で3年目。奄美大島、徳之島、沖繩島北部及び西表島をつなぐエアラインとして、これからも地域の皆さまと一体となった活動を続けていきます。



希少な動物や生態系の保護に貢献する「ロードキル防止標識」